

第2回 VLBI 科学諮問委員会 議事録

日時 2021年8月26日(木) 9:30-12:00

出席者(敬称略) 今井、高橋、立松、藤澤、米倉、村田
新沼、本間、廣田、小林(オブザーバー)

欠席者(敬称略) 郷田、嶺重

開催方法 オンライン (Zoom)

議事

(1) 第1回 VLBI 科学諮問委員会議事録の確認(資料1)

資料1の議事録の確認が行われた。

(2) 水沢 VLBI 観測所の第4期中期計画における研究方針(資料2-1、2-2)

資料2-1および資料2-2(プロジェクト申請書)にもとづいて議論が行われた。これは2022年度から水沢 VLBI 観測所をAプロジェクトとして再定義するものであり、Scientific Objectives は” We aim to explore the origin, structure and evolution of the most extreme objects in the universe via ultra-high angular resolution provided by East Asian VLBI Network (EAVN) and beyond”としている。主な内容はユーザーコミュニティである VLBI 懇談会で議論された将来計画に基づいている。この内容に対して、2021年5月21日に開催された本委員会第1回の続きとなる議論が行われた。内容は以下のようにまとめられる。

- ・ ユーザーが参加する大型観測計画を作るのが良いのではないか、という質問に対して、水沢 VLBI 観測所からそのやり方を検討するという回答があった。
- ・ 実際の観測時間について質問があり、EAVN に供する時間は最大で年間2000時間程度となる見込みが示された。従来の運用状況を考えると、VERA 4局だけで観測に使える時間が少なくとも年間500時間程度はあると考えられる。これは現在の共同利用とは別の枠組みで利用することを検討していることが水沢 VLBI 観測所から示された。従来の共同利用のようにサービス観測を行う予算が無い場合、何らかの形で経費の負担を行うことを検討している。
- ・ 現在の共同利用とは異なる枠組みの利用では、in-kind contribution も検討してほしいという意見に対して、運用人員の拠出、装置の拠出などの負担形態も検討しているという回答があった。
- ・ 野辺山-水沢の実践的な共同運用プランの検討をするべきという指摘があり、必要経費に関する議論があった。これは継続して議論することになった。

(3) その他

SKA と将来計画に関する議論があった。現状はサブプロジェクト申請を行い、検討グループを形成して検討が行われている状態であること、2022 年からは水沢 VLBI 観測所に密接に関連する独立したプロジェクトであることを踏まえた A プロジェクトとして申請をすること、などの説明が小林オブザーバーからなされた。コミュニティの要望があるので、本委員会でも VLBI の将来計画として引き続き検討をすることになった。

資料

資料 1. 第 1 回 VLBI 科学諮問委員会 20210521 議事概要.pdf

資料 2 - 1. A-ProjectApplicationForm20190201-1.doc

資料 2 - 2. STM_projectapplication210705.pdf